



Press Information

VPR17-073

2017年10月11日(水)

フォルクスワーゲン グループ ジャパン 株式会社

Volkswagen 「Passat 2.0 TDI*¹」シリーズの日本導入を決定

第45回 東京モーターショーに「Passat Variant TDI」を参考出品

- 2.0 TDI(ターボディーゼル)の国内認証を正式取得
- 増加傾向にある日本国内の輸入ディーゼル車需要に応える
- 「Passat 2.0 TDI」シリーズの導入は、来年初めから
- 世界的にも厳しい日本のポスト新長期規制排ガス規制に適合
(日本仕様の2.0 TDIは、排ガス後処理システムにEGR*²、酸化触媒、SCR*³、DPF*⁴を標準装備)
- 第45回 東京モーターショーに「Passat Variant TDI」を参考出品

*1 TDIは、VWのターボディーゼルエンジンシリーズの総称です。

*2 排気再循環

*3 SCR(尿素式選択還元触媒)

*4 DPF(ディーゼルパティキュレートフィルター)

フォルクスワーゲン グループ ジャパン 株式会社(代表取締役:ティル シェア、本社:愛知県 豊橋市、略称:VGJ)は、このたび、「Passat(パサート)」のディーゼルエンジン搭載車、「Passat TDI(パサートディーディーアイ)」シリーズの型式認証を取得し、日本市場への導入を決定いたしました。なお、国内販売は来年初めを予定しています。

近年、日本のディーゼル乗用車市場は拡大しており、今年上半期では、前年同期比で1.2倍、その中でも、ディーゼル車のバリエーションが多い輸入車が注目されています(同2倍以上)。ディーゼル車が伸びている背景には、経済性(燃油代)、パワフルな走り、環境への貢献(低いCO₂排出量)などへの理解が広がり、今後も一定の需要が見込まれています。VGJでは新たに「TDI」モデルを追加導入することで、ディーゼル車に関心が高いお客様のご要望にお応えしてまいります。

今回導入する2リッター、ターボディーゼル「TDI」は、排ガス後処理システムに酸化触媒、SCR(尿素式選択還元触媒)、DPF(ディーゼルパティキュレートフィルター)を採用することで、世界的にも厳しいとされる日本のポスト新長期排ガス規制に適合しています。この最新の「TDI」を搭載して導入する「Passat」は、セダンとステーションワゴンの2モデルがあり、国内販売するフォルクスワーゲンの中では上位に位置する中型車で、2015年7月の導入以降、ひとクラス上の競合車を凌駕する居住性、快適性、そして、将来の自動運転に向けた数々の高度運転支援システムや安全、快適装備を装備しています。また、次世代パワートレインとして注目されているPHEV(プラグインハイブリッド)をラインアップに持つなど、フォルクスワーゲンの先進技術を満載したモデルシリーズです。

VGJは、今回のディーゼルモデルの導入決定に合わせて、ステーションワゴンの「Passat Variant TDI」を10月28日(土)から一般公開が始まる第45回 東京モーターショーに参考出品します。